

ServerView Suite

ServerView Installation Manager (SVIM)

補足情報

■ はじめに

本書は、ServerView Installation Manager の操作上の補足情報をまとめたものです。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルおよび留意事項をご覧ください。

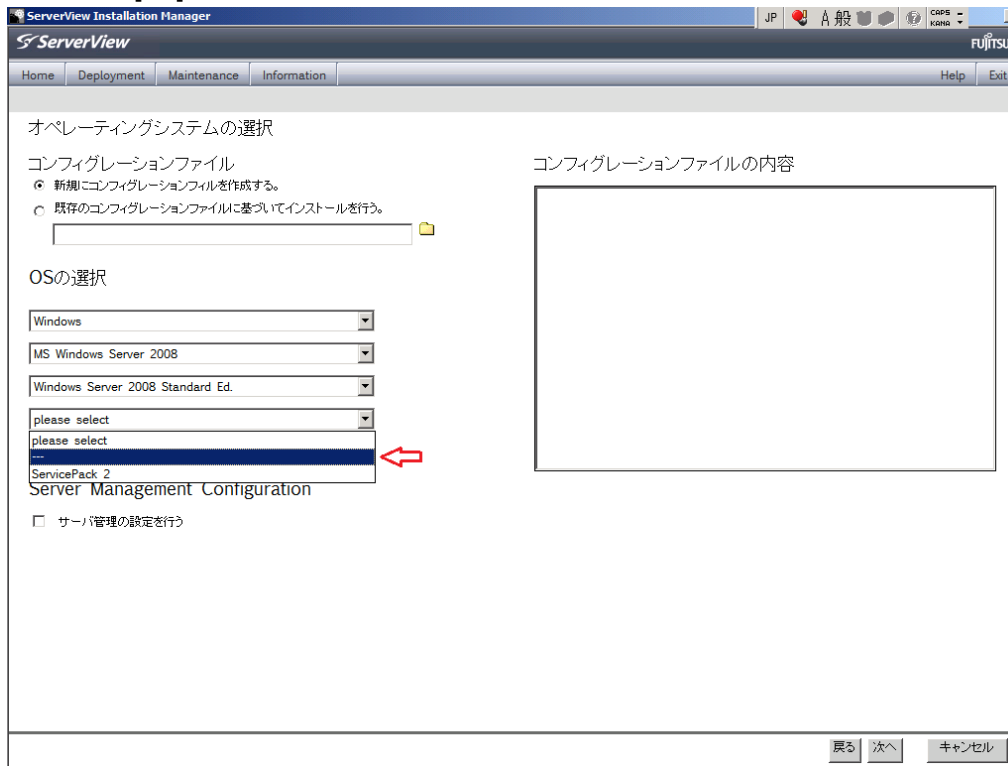
ServerView Installation Manager 取扱い説明書
DVD1 のソフトウェア留意事項

■ 補足情報

(1) Windows OS 指定時の [- -]の意味

V10.12.05U までは OS の選択画面で Windows を指定する場合のリストボックス内の選択肢に[- -]が表示されます。これはサービスパックを適用していない媒体を意味します。

サービスパックなしの Windows OS メディア(RTM 版、サーバ添付のインストールディスク)を使用してインストールする場合に[- -]を選択してください。



この項目は V10.12.07 以降では[SP なし媒体]と表示されます。

(2) Windows をインストールする際のプロダクトキーの入力

Windows をインストールする際のプロダクトキーの入力は SVIM の設定画面で行います。使用するメディアが OEM メディアの場合はプロダクトキーの入力は不要です。空白のまま作業を進めてください。Microsoft のリテール版メディアを使用する場合、OS インストール中にプロダクトキーの再入力を求められることがあります。入力画面が表示された場合は、再度プロダクトキーを入力してください。

(3) 「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用したインストールについて

「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用してインストールを行う場合、地域と言語の設定を「Japanese」にしてインストールを行ってください。この設定を行わなかった場合、SVIM でインストール完了後、一部のアプリケーションで文字化けが発生することがあります。

クイックモード:

- ・「OS の設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。

ServerView Installation Manager

JP 一般 CAPS KANA

ServerView FUJITSU

Home Deployment Maintenance Information Help Exit

Configuration

- RAIDとディスクの構成 (1)
- Windows 2008 Server
 - OSの設定**
 - 設定内容の確認 (1)

MS Windows Server 2008 R2

Windowsの設定

名前: 組織名:

コンピュータ名:

プロダクトキー: - - - -

Administratorパスワード: パスワードの確認入力:

キーボードのレイアウトに注意してください！

タイムゾーン: Tokyo Standard Time: (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

地域と言語: **Japanese**

IPv6

モード: ☒ DHCP ☐ 自動構成 ☐ 固定IP

IPアドレス:

サブネットプレフィックスの長さ:

IPv4

DHCPを使用する: ☒ 使用する ☐ 使用しない

IPアドレス:

サブネットマスク:

デフォルトゲートウェイ:

SNMP設定:

戻る 次へ キャンセル

ガイドモード:

- ・「インストールイメージの選択」画面の「セットアップ言語」、および、「基本設定」画面の「形式、言語」で「Japanese」を選択してください。

ServerView Installation Manager

JP 一般 CAPS KANA

ServerView FUJITSU

Home Deployment Maintenance Information Help Exit

Configuration

- RAIDとディスクの構成 (1)
- Windows 2008 Server
 - インストールイメージの選択
 - 基本設定
 - システムの設定
 - TCP/IPシステム
 - 役割と機能の追加
 - 追加のパラメータ
 - アプリケーション (1)
 - 設定内容の確認 (1)

MS Windows Server 2008 R2

インストールイメージの選択

インストールメディア:

- ☒ インストールディスク
- ☐ Microsoftメディア
- ☐ カスタマイズイメージ

インストールのタイプ: ☐ Core ☒ フルインストール

セットアップ言語: **Japanese**

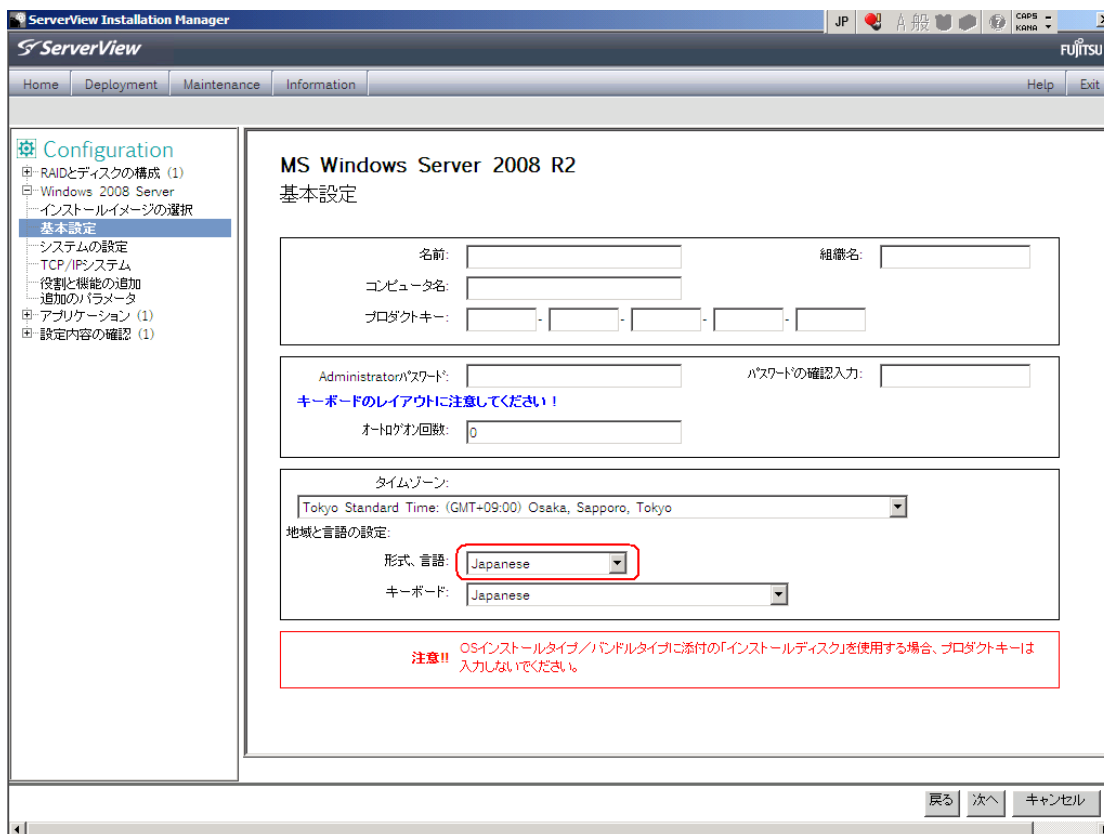
アーキテクチャ: AMD 64

イメージインデックス: 0

*) インストールタイプを変更した場合、全ての設定を見直してください！

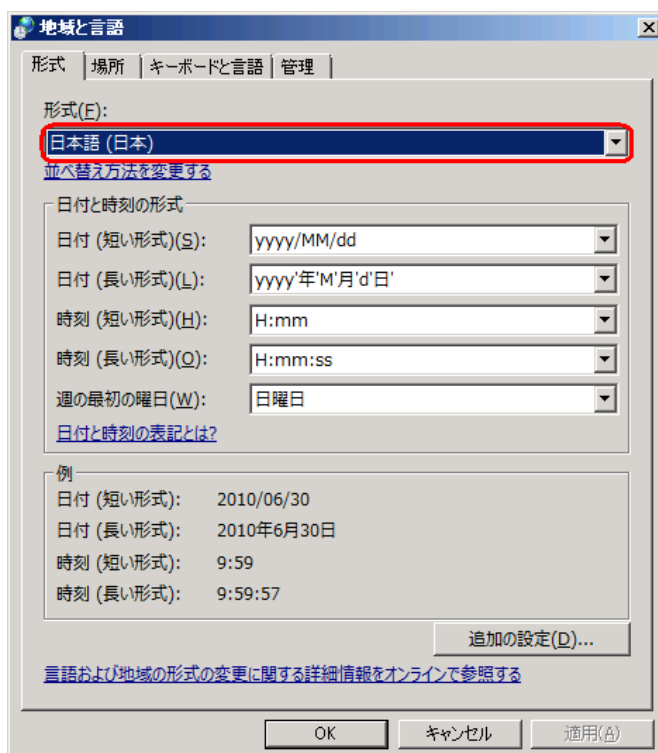
**) 選択された言語がインストールメディアで利用できない場合、標準の言語が使用されます。

戻る 次へ キャンセル



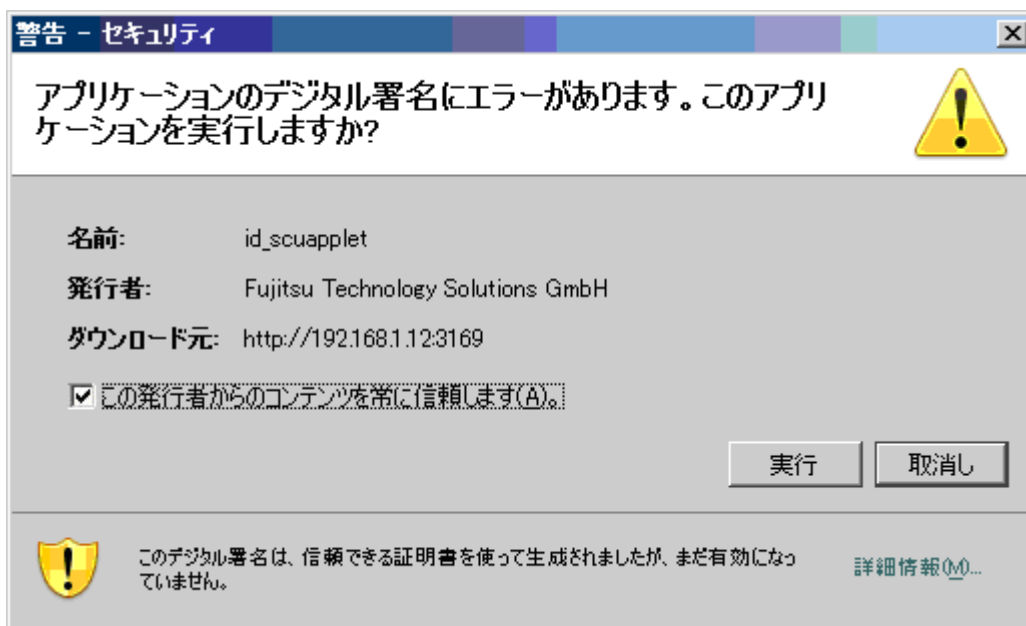
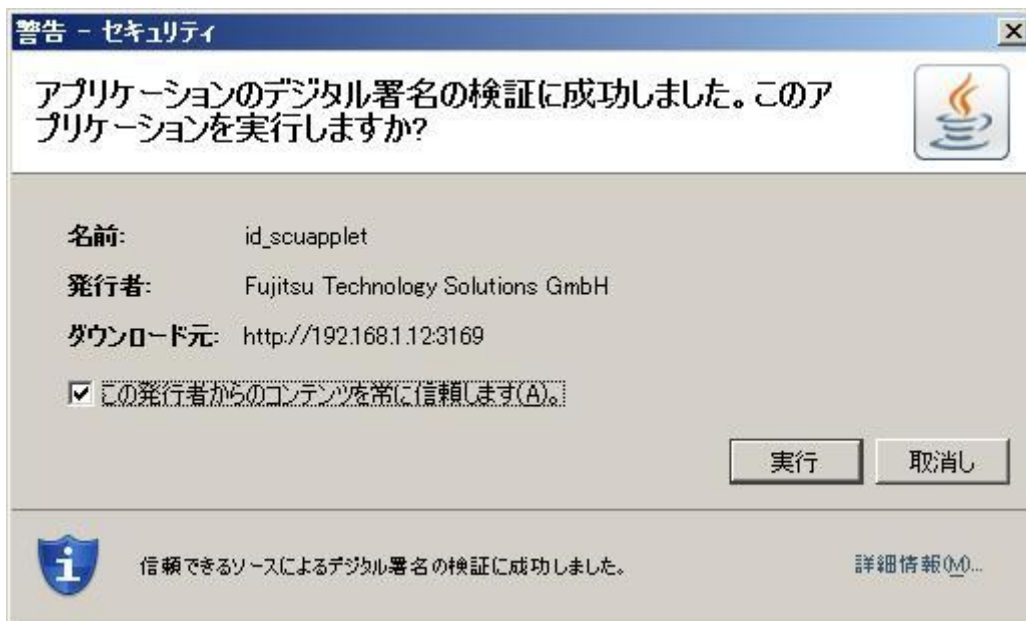
インストール完了後、文字化けが発生した場合には、下記手順を行い、問題を解消することができます。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「コントロールパネル」に表示されている「時計、言語、および地域」の「表示言語の変更」をクリックします。
3. 「地域と言語」ウィンドウの「形式」タブをクリックします。
4. 「形式」を選択し、一度日本語以外の言語を選択した後、「日本語(日本)」に再設定します。



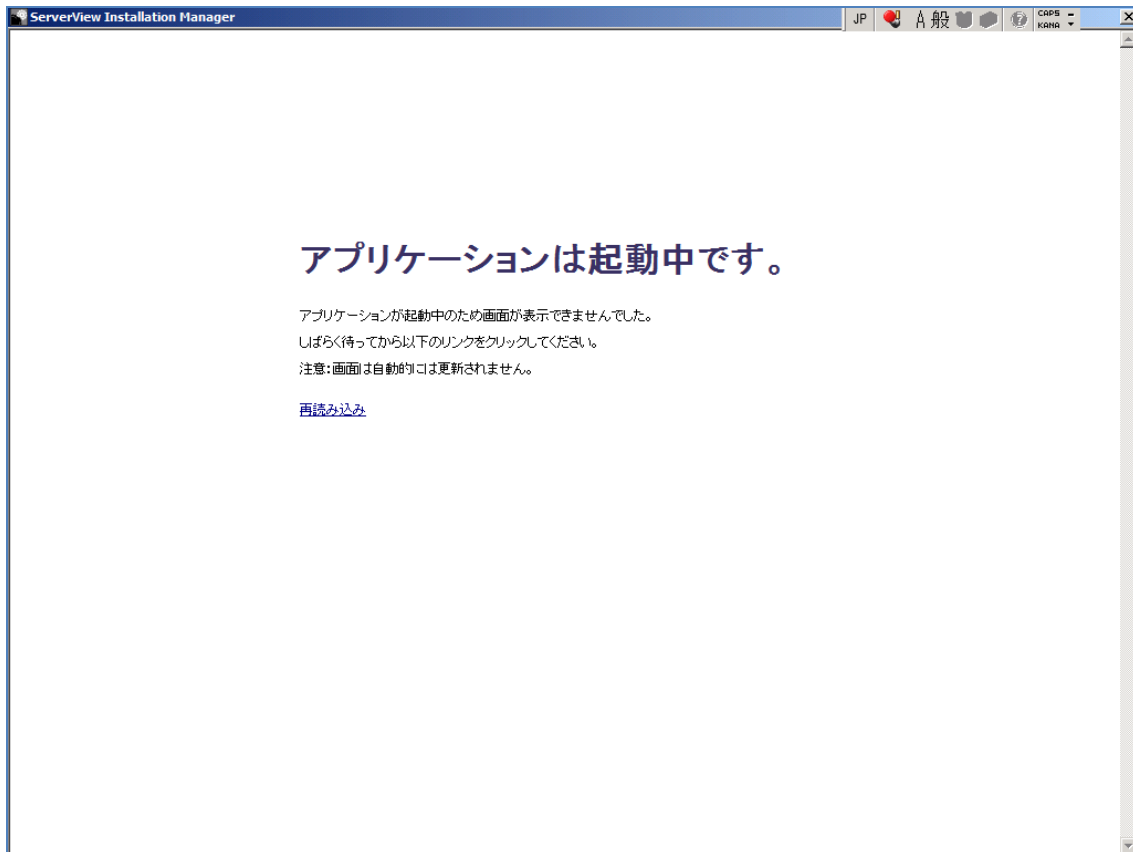
(4) Server Configuration Manager 起動時の警告メッセージについて

リモートインストールにおいて、Server Configuration Manager を起動し設定を行う際に、下記のようなデジタル署名に関する警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します(A)。」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。



(5) ServerView Installation Manager 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に下記メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。



- (6) **ServerView Operations Manager は、「ServerView Suite」パッケージグループ配下に表示されます**
V10.10.10 以降の SVIM では、「Software Packages for JAPAN」パッケージグループ配下には表示されません。
ServerView Operations Manager は V10.10.10 以降各国語共通版となり、「ServerView Suite」パッケージグループ配下のメニューに統合されました。

- (7) **Red Hat Enterprise Linux 6 指定時の[--]の意味**
OS の選択画面で Red Hat Enterprise Linux 6 を指定する場合のリストボックス内の[--]は 6.0 を意味します。

- (8) **Red Hat Enterprise Linux のリモートインストールにおける留意事項**
リモートインストール機能を使用して Red Hat Enterprise Linux をインストールする場合は、Linux サーバを FTP/HTTP サーバとすることを推奨します。
Windows サーバを FTP/HTTP サーバとして使用する場合は、以下に注意して操作を行ってください。

- ① Red Hat Enterprise Linux ディストリビューションディスクを Windows サーバにコピーする際に、ファイル名が 63 文字に切り詰められます。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

例として下のようにファイル名が切り詰められます。

正しいファイル名

jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm

FTP/HTTP サーバ内のファイル名

jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38 (63 文字に切り詰められます)

- ② Red Hat Enterprise Linux 6 について
Red Hat Enterprise Linux 6 の OS メディアを DVD ドライブに挿入し、下記コマンドを実行してください。

```
xcopy [DVD ドライブ]:\ [コピー先ドライブ]:\[共有フォルダ] /s/e/v/h/i
xcopy [コピー先ドライブ]:\[共有フォルダ]\Server\repodata [コピー先ドライブ]:\[共有フォルダ]\repodata
/s/e/v/h/i
```

(9) Red Hat Enterprise Linux および VMware のパスワード設定時の注意

SVIM で Red Hat Enterprise Linux、VMware をインストールする際のパスワード設定で以下の文字を使用することができません。

Red Hat Enterprise Linux	‘ (シングルクォーテーション)、先頭文字にハイフン “-”
VMware	‘ (シングルクォーテーション)、# (シャープ)

ただし、「root パスワードの暗号化」を指定する場合この限りではありません。

(10) Red Hat Enterprise Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください

SVIM の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目がチェックされた状態になっています。チェックをはずしてインストールを行ってください。チェックを外さずにインストールすると、インストール完了後に時間が 9 時間ずれた状態となります。その場合は時間を再設定してください。

(11) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面)で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(12) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するには時間がかかることがあります

Windows Server 2008 R2 をインストールする際に、ServicePack1 を単体のメディアでインストールする場合には機種によって数時間かかることがあります。

(13) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数は最大 4 個です

5 個以上のディスクパーティションを設定するには、RAID とディスク構成画面では 3 個までとし、OS インストール後に Windows メニューのディスク管理で設定してください。

(14) Windows Server 2008 R2 に SP1 を適用するには Disk 空き領域が 9GB 以上必要です

空き領域が不足する場合は、SVIM での OS インストール処理後に 9GB 以上の空き領域を確保してから、手動で SP1 の適用を行ってください。

(15) 32GB の SSD には Windows Server 2008 / R2 をインストールすることができません

インストール処理時に一時的な作業領域が必要なため、Windows Server 2008 / R2 をインストールするには、32GB の SSD は容量不足となり使用できません。

(16) Windows のリモートインストールにおける留意事項

iRMC 搭載機種にリモートインストール機能を使用して Windows をインストールする場合は、「ターゲットシステムの選択」画面において、iRMC の IP アドレスを必ず設定してください。設定しない場合、インストールが途中で停止し自動で継続しない場合があります。

(17) Windows Server をインストールする際のデフォルトパーティションサイズ

SVIM V10.11.06 でインストールする際のデフォルトパーティションサイズは以下です。

Windows Server 2003 R2:	15360MB
Windows Server 2008 / R2:	33792MB
Windows Server 2012	33792MB

Windows インストールに必要な最低パーティションサイズはデフォルトサイズと同一値です。

(18) Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションに割り当てる方法

Red Hat Enterprise Linux OS で HDD の全容量をパーティションとして割り当てるには「RAID とディスクの構成」画面で残り容量より十分小さい値(たとえば 1MB)をサイズ欄に指定し、「最大許容量まで使用」を選択してください。

(19) ボリュームライセンスメディアのプロダクトキーの入力について

- Windows Server 2008 / R2、Windows Server 2012 の場合
SVIM の設定時にプロダクトキーを入力しないで下さい。
インストール終了後に、インターネットを経由して Microsoft のライセンス認証サーバに対してライセンス認証(アクティベーション)を行ってください。
MAK プロダクトキーはこのときに入力します。
- Windows Server 2003 R2 の場合
SVIM の設定時にプロダクトキーを入力してください。

(20) Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール手順について

Windows Small Business Server 2011 Essentials をインストールする場合、以下のように選択してください

ガイドモードでは以下のように操作します。

- ① 初期画面の言語選択では「Japanese」を選択します。
- ② OS 選択画面では「Windows SBS 2011 Essentials」を選択します。
- ③ インストールイメージの選択画面ではセットアップ言語を「Default」のままとします。
- ④ 基本設定画面の「地域と言語の設定」は「English」のままで変更できません。
- ⑤ OS インストール開始後、SBS 設定で「サーバの言語として日本語を使用する」を選択します。
「国または地域」「時刻と通貨」「キーボードのレイアウト」で「Japanese」を選択します。
クイックモードでインストールを行う場合は、③、④のステップは表示されませんが、そのままインストールを行えます。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール後、キーボードの「規定の言語」が「日本語(日本) - 日本語」に設定されます。

「日本語(日本) - 日本語」を「日本語(日本) - Microsoft IME」に設定しなおすには下記手順を行ってください。

1. 「スタート」- 「コントロールパネル」- 「地域と言語のオプション」を開きます。
2. 「キーボードと言語」のタブから「キーボードの変更」をクリック
3. 「規定の言語」で「日本語(日本) - Microsoft IME」を選択し「適用」をクリックします。

(21) ストレージブレードはシャーシから外してインストールしてください。

ストレージブレードに OS をインストールしない場合は、インストール前にストレージブレードをシャーシより外してください。インストール完了後ストレージブレードを挿入し、ご使用ください。

(22) Server Configuration Manager の処理が停止する場合があります

Server Configuration Manager の設定において画面遷移の際に処理が停止する場合があります。

この現象が発生した場合は「キャンセル」をクリックし SVIM のスタートページに戻ってください。

Server Configuration Manager の設定は SVIM では行わず OS インストール完了後に SVOM から行ってください。

(23) PCI カード多数搭載時に SVIM の起動に時間がかかる場合があります。

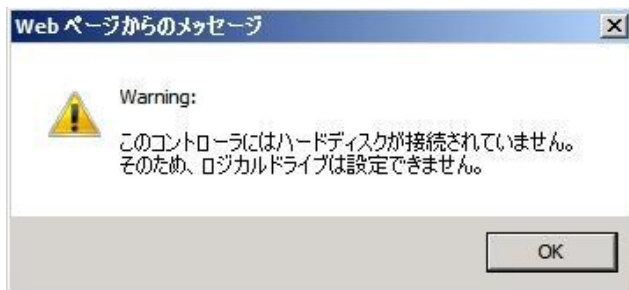
PCI カードを多数搭載した場合 SVIM の起動に数時間かかることがあります。

(24) V10.11.11 以前の SVIM を使用して Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) を UEFI モードでインストールする場合の留意事項

V10.11.11 以前の SVIM では Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64) を UEFI モードでインストールする場合は、/boot および /boot/efi をそれぞれマウントポイントとするディスクパーティションを作成することはできません。

(25) ハードディスクを接続しない RAID コントローラーが存在する場合に、警告メッセージが表示されることがあります。

RAID とディスクの構成において、ハードディスクが接続されていない RAID コントローラーが存在すると以下のような警告が表示されることがあります。



(26) Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ:仮想化(XEN カーネル環境)をインストールする場合の手順について

Red Hat Enterprise Linux 5、かつ、パッケージグループ:仮想化(XEN カーネル環境)をインストールする場合、以下のように選択してください。(i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)

– インストールモードの選択

- ① [ガイドモード] を選択します。

– パッケージ選択手順

- ① [インストール番号:] を入力します。
- ② [パッケージグループ:] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
- ③ [Kernel:] で以下のチェックボックスをオンにします。

- Native Kernel

– ブートローダ手順

- ① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
- ② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(27) V10.11.08U 以前の SVIM を使用して Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールする場合は、手動で RAID を構築してください。

Windows Server 2008 / R2 を UEFI モードでインストールする場合、V10.11.08U 以前の SVIM では RAID の構築はできません。予め手動で RAID 構築をしてください。

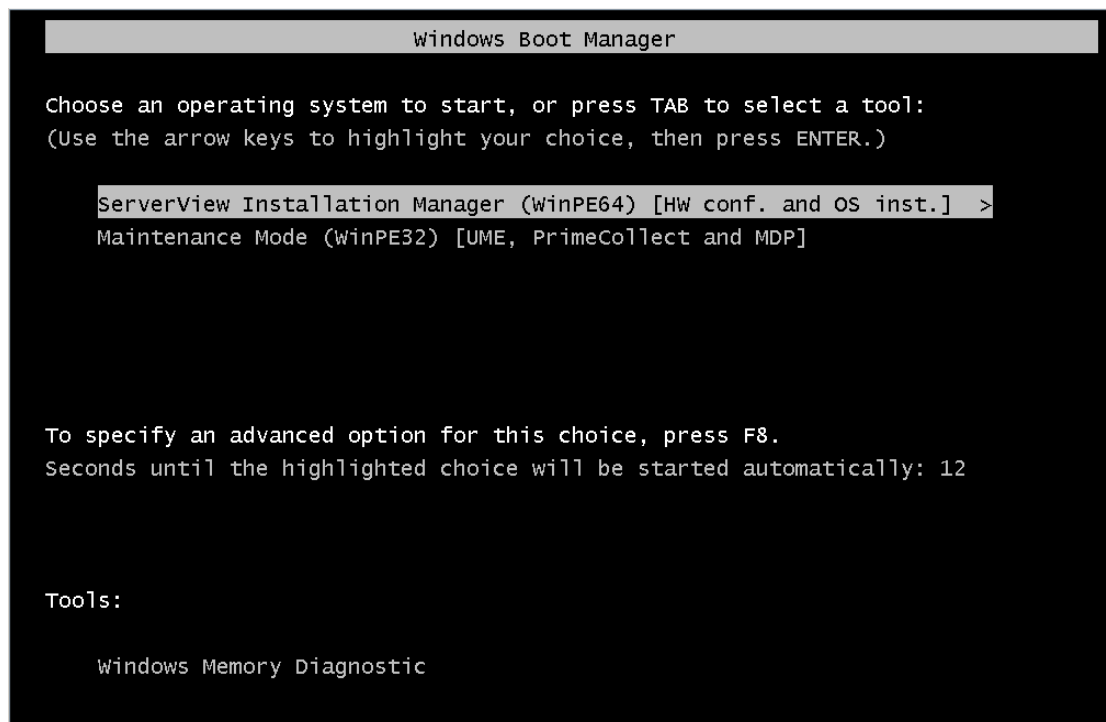
(28) UEFI モードでインストールする際は、RAID コントローラー1台構成で実行してください。

複数の RAID コントローラーが接続された状態ではインストールが失敗することがあります。

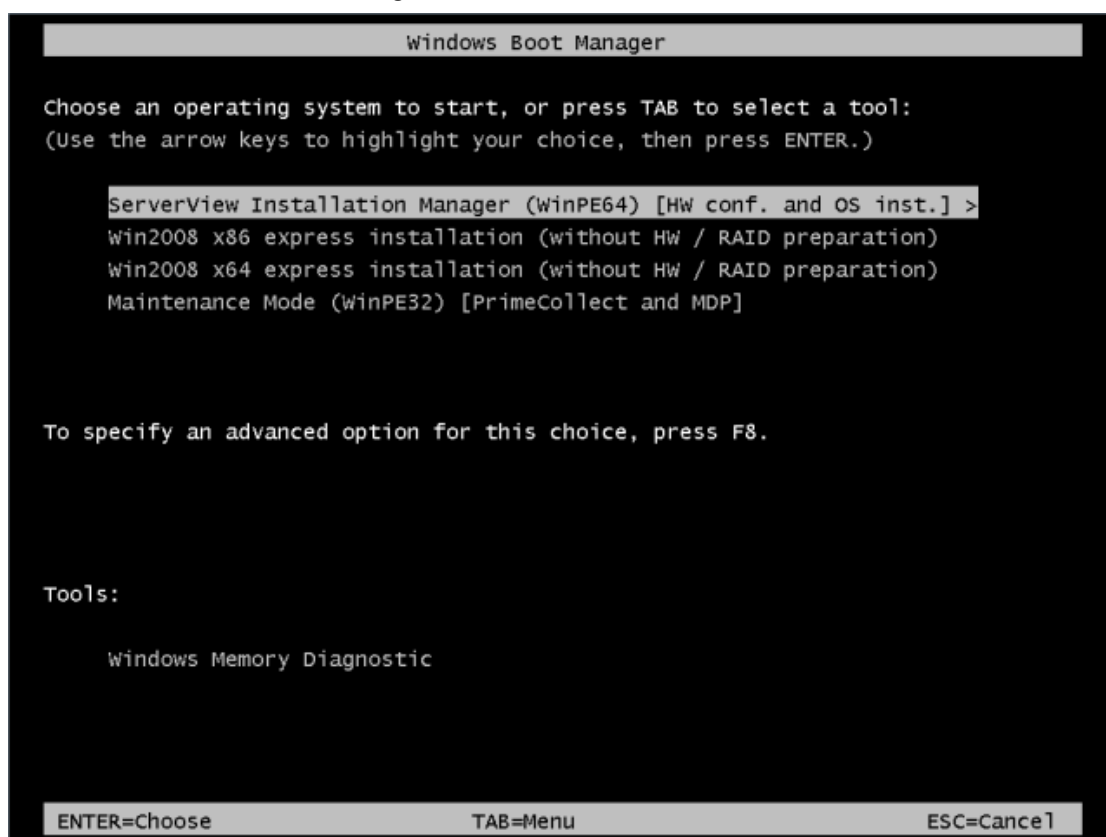
(29) SVIM の起動後 Windows Boot Manager 画面が表示されます。

ServerView Installation Manager を使用する場合は「ServerView Installation Manager (WinPE64)」を選択してください。

Update Manager Express, PrimeCollect, MDP を使用する場合は「Maintenance Mode (WinPE32)」を選択してください。ただし、Update Manager Express は V11.12.10 以降で SVS DVD1 から削除されたため、起動できなくなりました。



また V11.13.01 以降は Boot Manager の選択肢が増えました。



なお UEFI モードでシステムを起動した場合はこの画面は表示されません。

(30) OS をインストールするには UEFI モード・BIOS モードに気を付けてください。

UEFI モードに対応している OS を UEFI モードに対応している装置にインストールする場合は OS を UEFI モード、BOIS モードどちらでもインストールすることができます。ServerView Suite DVD1 を起動する際に UEFI モー

ドで起動すると UEFI モードで、BIOS モードで起動すると BIOS モードでインストールされます。
UEFI モードに対応していない OS を UEFI モードに対応している装置にインストールする場合は、UEFI モードで ServerView DVD1 を起動するとインストールが失敗することがあります。
UEFI モード、BIOS モードの起動方法はサーバの機種によって異なります。それぞれのハードウェアのマニュアルを参照してください。

- (31) **Windows OS をインストールする場合のブートパーティションサイズの最小値は 400MB です。**
パーティションの利用形態で「boot」のみを指定した場合のパーティションサイズの最小値は 400MB です。

(32) **Windows Server 2008 の画面の設定について**

ガイドモードを使用して Windows Server 2008 をインストールする場合、「システムの設定」画面で「解像度、リフレッシュレート、画面の色」を選択できますがインストール完了後、ここで指定した値は反映されません。
インストール完了後は以下の設定になります。

解像度: 1024×768 px

リフレッシュレート: 75 Hz

画面の色: 16 bit

- (33) **簡易インストール ではセットアップ中にシステムの電源が自動で投入されない場合があります。**
MMB を使用した簡易インストールではセットアップ処理中の再起動時に電源が自動で投入されない場合があります。その場合は手動で電源を投入してください。セットアップが継続します。

- (34) **V10.12.03 より「すべてパッケージ」を使用した際にインストールされるパッケージが変更されました。**
V10.12.03 より Red Hat Enterprise Linux OS のパッケージ選択画面で「すべてパッケージ」を選択した際にインストールされるパッケージが変更されました。

(35) **Linux をインストールする際の swap パーティションのサイズについて。**

swap パーティションを作成するとき「パーティションを推奨のサイズで作成する」をチェックした場合には、次のルールで容量が自動で決定されます。

パーティションサイズは搭載メモリの量とディスクの空きスペースにより決定します。

256MB 以下の場合 : 256MB ~ 512MB

256MB ~ 2048MB の場合 : メモリ量と同値 ~ メモリ量×2

2048MB 以上の場合 : 1024MB ~ 2048MB + メモリ量

(36) **Server Configuration Manager 機能は 2GB 以上のメモリが必要です。**

OS 選択画面から Server Configuration Manager を起動するには 2GB 以上のメモリの実装が必要です。

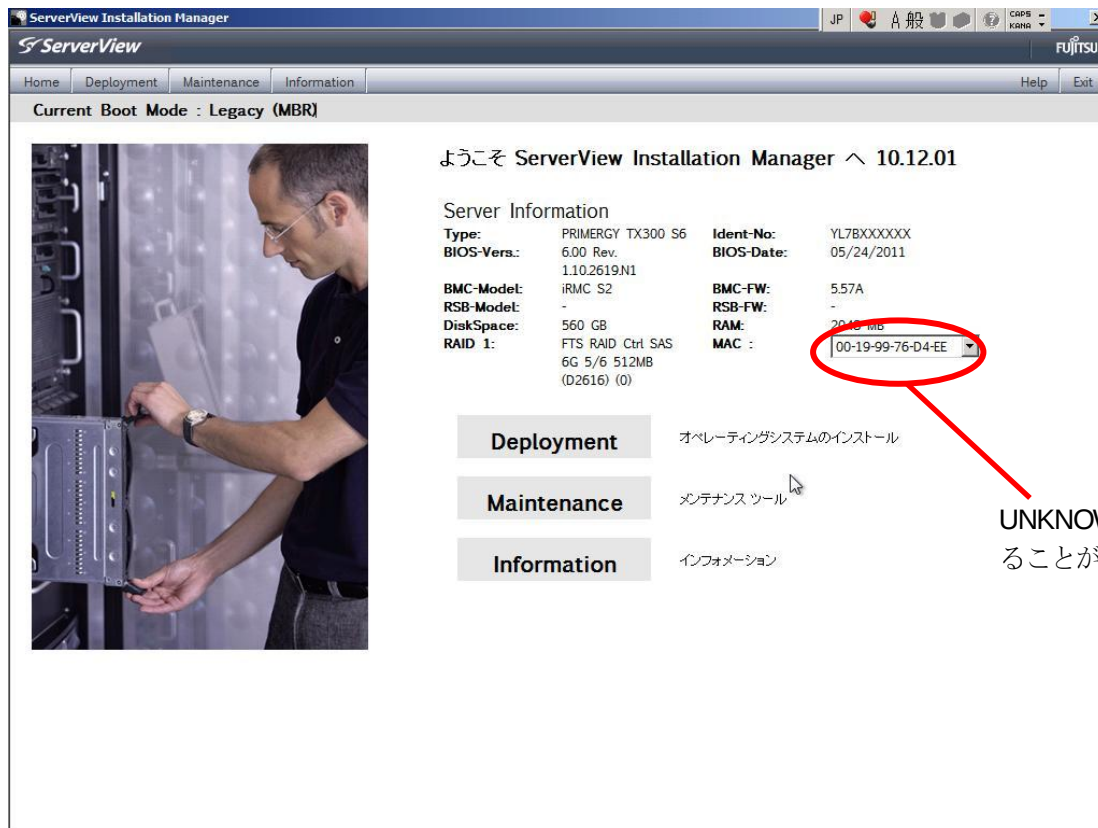
(37) **OS 設定パラメータの使用禁止文字について**

OS 設定パラメータの中には使用禁止されている文字があります。使用禁止文字が入力された場合は、キー入力時または次の画面に移動する際にチェックを行いますが、コピー＆ペーストによって入力された使用禁止文字はチェックされない場合があります。コピー＆ペーストでの入力を行わないでください。

例: Windows 設定時の コンピュータ名 英数字、-(ハイフン)、_(アンダースコア) 以外は使用禁止文字です。

(38) **LAN ポートの MAC アドレスが UNKNOWN 表示された場合の対処**

LAN ポートが多数存在する構成において、SVIM の「ようこそ画面」で LAN ポートの MAC アドレスが「UNKNOWN」と表示される場合があります。その場合は、SVIM を再起動し「言語選択画面」で 2 分間待ってから言語を選択してください。



UNKNOWN と表示されることがあります

(39) Windows Server 2008, 2008R2 をインストールする際の再起動回数

V11.12.10 または V11.12.11 を使用して Windows Server 2008, 2008R2 をインストールする場合、再起動回数が1回多くなります。

(40) Update Manager Express は V11.12.10 以降 SVS DVD1 から削除されました。

V11.12.10 以降で Update Manager Express の機能を利用する場合は Update DVD を使用してください。

(41) LVM 環境の構築の注意点

Red Hat Enterprise Linuxをインストールする際に、LVM環境のパーティションを作成するには「RAIDとディスクの構成」画面においてサイズを設定する際に注意が必要です。

- ① 「パーティションの追加」ボタンを押します。
ここで追加したパーティションをLVMボリュームグループとします。
- ② パーティションの+ボタンをクリックして「LVM ボリュームグループの作成」をチェックします。
- ③ 「サイズ(MB)」にLVM ボリュームグループに割り当てるサイズを入力します。
このときのサイズは、実際の残り容量以下の値を入力してください。端数がある場合には「追加容量オプション」に「最大許容量まで使用」をチェックすることで最大容量を確保できます。
残り容量 ≥ LVM ボリュームグループサイズ
- ④ 「適用」をクリックします。
「ディスク1」と同等のレベルに「LV グループ」が追加されます。
- ⑤ LVM ボリュームグループ内にパーティションを設定します。
パーティションのサイズとして指定できるのは、LVM ボリュームグループのサイズより 40MB 小さい値です。
LVM ボリュームグループのサイズ ≥ グループ内のパーティションのサイズの総和 + 40MB
パーティションをLVMボリュームグループのサイズまで確保するには、「最大許容量まで使用」をチェックします。

例)残りディスクサイズ 50123MB の場合

残りディスクサイズをすべて LVM ボリュームグループに割り当て、1つのパーティションを最大容量で確保

LVM ボリュームグループの「サイズ(MB)」 : 50000 「最大許容量まで使用」にチェック

パーティションのサイズ : 1 ~ 49960 「最大許容量まで使用」にチェック

SVIM は異なる物理ディスクを束ねて LVM ボリュームグループを作成することはできません。

(42) Red Hat Enterprise Linux におけるデフォルトでインストールされるパッケージの注意点

「アプリケーションウィザード」画面で選択するアプリケーションによっては、パッケージが追加インストールされるものがあります。追加されるパッケージのは、アプリケーションの選択を解除しても、追加指定は解除されません。初期状態に戻すには「キャンセル」ボタンをクリックし、「オペレーティングシステムの選択」画面からやり直してください。

(43) Windows Server をインストールする際の Bitlocker パーティションサイズ

Windows Server をインストールする際に、「RAID とディスクの構成」画面でパーティションの利用形態の「Bitlocker」をチェックしたときの、システム予約パーティションサイズは以下となります。

	V11.13.04 以前	V11.13.05
Windows Server 2008	1600MB	1600MB
Windows Server 2008R2	1600MB	400MB
Windows Server 2012	1600MB	400MB

■ トラブルシューティング

SVIM を使用した際のエラーメッセージとそれに対する対処方法を記載します。

1. SVIM 起動時またはパラメータの設定時

① [Core] Installation Manager は、PRIMERGY システム上のみで使用可能です。 …

原因: SVIM は PRIMERGY および PRIMEQUEST ではないシステムでは起動しません。

対応: 使用しているサーバが PRIMERGY または PRIMEQUEST であることをご確認ください。

② Configuration file not found

原因: SVIM 画面操作中にウィンドウ右上の × ボタンをクリックし、画面を閉じた場合に表示されます。

対応: SVIM の起動からやりなおしてください。

③ [Core][System]Backup media not writable, Last Error:このメディアは書き込み禁止になっています。

原因: コンフィグレーションファイルの保存先に指定した媒体が書き込み禁止になっています。

対応: 媒体の書き込み禁止を解除してください。

④ timeout on / svim / Legacy

原因: OS 選択画面を表示した直後に稀に表示されることがあります。

対応: 操作を続行しても問題ありません。[OK]ボタンをクリックして操作を続行してください。

⑤ ネットワークパス～～～に接続できません。ユーザ × × × ; ネットワークパスが見つかりません。

原因: 初期画面でコンフィグレーションファイルをネットワークドライブ指定した際に、ネットワーク接続がされていない場合に表示されます。

対応: ネットワーク設定の見直しを行ってください。

コンフィグレーションファイルの指定をネットワーク以外にしてください。

2. OS インストール中のエラー

① [DiskConfig] Error in configuration file: hard disk too small to hold all partitions

原因: 「RAID とディスクの構成」画面で 指定したパーティションサイズが正しくありません。

対応: 以下の点を見直してください。

- ・パーティションを手動設定した際に、実際のディスク容量よりも大きい値を設定した。

- ・「ディスク容量(MB)」を「手動」指定した際に、入力したサイズ値が、OS が必要とする最小値より小さい場合。

② [OsInstall] No installation image found, which matches the architecture of the configuration file

原因: 「OS 選択画面」で指定した OS の種類と異なる OS のメディアを挿入した場合に表示されます。

対応: OS の種類を確認し、正しい OS を選択してください。

③ [OsInstall] No installation image found, which matches the selected edition

原因: 「OS 選択画面」で Windows OS を指定した際に、指定とは異なるメディアを挿入した場合に表示されます。

また、プロダクトコードの入力値を間違えた場合もこのメッセージが表示されます。

対応: 以下のいずれかが不一致を起こしていないか確認し、正しい OS を選択してください。

- ・OS エディション

- ・Service Pack (SP) の有無、または Service Pack の版数

- ・プロダクトコードの入力

④ [OsInstall]必須のパラメータがありません。

原因:UEFI に対応していない OS に対して、UEFI モードでインストールを行った場合に表示されます。

対応:Legacy モードでインストールを行ってください。UEFI モードのインストールについては、サーバがサポートしているかどうか注意が必要です。

⑤ [RaidConfig] Invalid number of disks specified (must be ***).

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定した RAID 構築の際のディスク数が、実際に存在するディスク数より小さい場合に表示されます。

対応:正しいディスク数を入力してください。

⑥ [RaidConfig] Operation cannot be executed at this time. Error code:20085(Invalid size.)

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定したディスクサイズが、実際に存在するディスクのサイズより大きい場合に表示されます。VMware インストールする際に表示されます。

対応:正しいディスクサイズを入力してください。

⑦ [RaidConfig] Specified size too big (must be <= *****).

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定したディスクサイズが、実際に存在するディスクのサイズより大きい場合に表示されます。Windows または Linux をインストールする際に表示されます。

対応:正しいディスクサイズを入力してください。

⑧ Missing operating system

原因:Red Hat Enterprise Linux のインストールを行っている際に、マルチパス環境で接続されているが、SVIM の「ブートローダ」画面の「マルチパスオプションを使用する」にチェックしていない場合に表示されます。

対応:SVIM の再起動を行い、「マルチパスオプションを使用する」をチェックしてください。

⑨ 「無人応答ファイル(c:\windows\panther\unattend.xml)解析または処理できませんでした。」

原因:Windows のインストールを行っている際に、「役割と機能の追加」画面において SNMP サービスの詳細設定で「トラップ構成項目(コミュニティ名:トラップ送信先)」に同一のコミュニティ名で複数の IP アドレスを登録し、インストールを開始した場合にこのメッセージが表示されることがあります。

対応:同一のコミュニティ名で異なる IP アドレスの設定を行わないようにします。OS インストール後にトラップ送信先の指定を、同一コミュニティで指定することができます。

以上